

天球院様が嫁いだ山崎家盛の若桜鬼ヶ城

播磨・但馬につながる交通の要衝にある八東川と三倉川に挟まれた標高 452m の鶴尾山の山頂に築かれた山城。因幡三名城（若桜城、鳥取城、鹿野城）のひとつに数えられる名城である。関ヶ原の戦後の慶長6年（1601）には、摂津三田から山崎家盛が入城している。元和3年（1617）に山崎氏が備中成羽へ転封となり、池田光政が因伯2国を領す鳥取城主となると、一国一城令により廃城となった。



二の丸に建てられた城郭碑



現在も当時の石垣が残り、典型的な山城の形態をとどめており、平成20年（2008年）3月に国史跡に指定された。

本丸、二の丸、三の丸などに石垣が残り、典型的な山城の形態をとどめている。古い時期の城跡が新しい城跡とは別に残っていることや「廊下橋虎口」など他の城では見られない貴重な遺稿が残っている



山腹の遺構は、堅掘る堀切が南北の尾根沿いに造られ、小規模な曲輪群を形成している。

これらの石垣群は、木下氏と山崎氏が築いたとされ、打ち込み接ぎの技法によって、石垣が美しく整然と積み上げられている。



この因幡と播磨は因幡街道で結ばれていた。江戸時代、鳥取城下から若桜の浅井までの道が、八東往来や若桜往来と呼ばれ。浅井から左には伊勢道、氷ノ山北方を越えて但馬を通るお伊勢参りの道がある。右に行くと播磨道、戸倉峠を越えて播磨宍粟・姫路方面に進む。戸倉峠を越した先の道は因幡街道と呼ばれた。若桜は交通の要衝となり多くの人の往来で賑わっていたと言う。本丸から眺望する若桜は絶景である。

